

2025年度

事業報告書

公益財団法人 東京都医学総合研究所

目 次

I 公益目的事業の実施状況

第1 研究事業	1
1 プロジェクト研究	1
2 研究センター	2
3 特別研究	3
4 産学連携等研究	4
(1) 受託研究	
(2) 受託事業	
(3) 共同研究	
5 病院等連携研究	7
6 研究に関する専門的支援	7
第2 普及事業	8
1 研究所の役割・研究成果の発信	8
2 医学研究・生命科学研究への関心の涵養	9
3 研究人材等の育成	9
4 地域との交流	10
5 研究成果の実用化	11

II 運営体制の充実を図るための取組

第1 運営体制の充実を図るための取組	12
--------------------------	----

I 公益目的事業の実施状況

第1 研究事業

1 プロジェクト研究

プロジェクト研究は、研究課題、研究目標を明確にし、5年間の期間を定めて研究成果の都民還元を目指した研究を効果的かつ効率的に推進するものであり、外部委員による評価を受けながら実施している。

2025年度（令和7年度）からスタートした第5期プロジェクトでは、都民のニーズに応えるべく、東京都医学総合研究所が取り組むべき10課題をもとに、15のプロジェクト研究を開始し、2025年度後半から「心不全」のプロジェクトを加え、16のプロジェクト研究を推進した。

No.	プロジェクト名（略称）	研 究 テ ー マ
1	認知症研究 <Dementia Research>	認知症の分子機構解明と新規治療法・予防法の開発
2	脳機能再建 <Neural Prosthesis>	中枢神経機能再建法の開発と実践
3	こどもの脳 <Child Brain>	こどもの脳の疾患克服のためのコンソーシアム
4	統合失調症 <Schizophrenia Research>	統合失調症の原因究明と予防・治療法の開発
5	睡眠 <Sleep Disorders>	睡眠障害の多層的病態解明と診断・治療基盤の確立
6	依存性物質 <Addictive Substance>	依存性物質の作用機序解明とその医療応用
7	視覚病態 <Visual Research>	網膜・視神経の保護と再生による視覚障害の治療法の開発
8	がん免疫 <Cancer Immunology>	がん免疫の網羅的解析およびそのがん治療への応用
9	ゲノム動態 <Genome Dynamics>	ゲノムの継承・維持とその障害によるがんなどの疾患発生の分子機構の解明
10	難聴 <Deafness>	難聴遺伝子の機能解明に基づく治療法の開発
11	高次脳機能 <Higher Brain Function>	微小脳アルゴリズムから解き明かす脳高次機能共通原理
12	脳神経回路形成 <Developmental Neuroscience>	神経回路の構築原理から解き明かす脳発達学フォアフロント

No.	プロジェクト名（略称）	研 究 テ ー マ
1 3	再生医療 <Regenerative Medicine>	iPS細胞の改変による遺伝性疾患の治療法開発
1 4	体内時計 <Circadian Clock>	概日時計と寿命・老化タイマー
1 5	品質管理 <Intracellular Quality Control>	細胞内品質管理による生体恒常性維持の分子機構
1 6	心不全 <Stress-imprinted Immunity>	ストレス免疫記憶が引き起こす心不全増悪メカニズムの解明

2 研究センター

自らが持つ課題の研究を行いながら、研究所内外に対する専門的な支援や都の保健福祉施策に直接貢献する組織として、研究及び支援活動等を推進した。

（1）ゲノム医学研究センター

約30億の塩基対により構成されているヒトゲノムの機能、とりわけ遺伝子の発現に着目した研究を展開した。

また、都立病院等と連携し、疾患の原因となる分子機構を解明するとともに、各プロジェクトに対し、ゲノムデータの解析等の支援を行った。

（2）社会健康医学研究センター

大規模コホートによる思春期の心身の健康・発達を支える要因の解明や、疫学的な見地によるうつ病研究、難病ケア看護に関する研究を展開した。

また、東京都と連携し、行政ニーズの高い社会健康医学研究を推進した。

（3）感染症医学研究センター

パンデミックを引き起こす可能性のある重点感染症や難治性感染症等の感染分子機構及び免疫制御機構に焦点を当て、治療薬やワクチンの開発につながる研究を展開する。

また、東京都健康安全研究センターや都立病院等と連携し、感染症医学研究を推進した。

3 特別研究：4 課題

東京都の重点施策の推進のため、短期的・集中的に特別研究を実施し、研究成果の都民還元を目指した。

(1) 人工神経接続装置開発の推進

脊髄損傷患者や脳梗塞患者の身体機能の回復を目指し、独自に開発した「人工神経接続」を用いて、疾患病態に合わせた神経接続方法と刺激方法を開発するための臨床研究を推進した。

研 究 課 題
人工神経接続装置の開発に向けた臨床研究

(2) 新型コロナウイルス等予防ワクチン開発研究の推進

これまでに確立したワクチン開発技術を用いて、現在流行している新型コロナウイルスだけではなく、今後新たなコロナウイルスが発生した場合にも即座に対応可能なワクチンの開発を行い、臨床試験につなげることを目指した。

研 究 課 題
新型コロナウイルス等予防ワクチン開発研究の推進

(3) 認知症発症メカニズム解明と新規治療法等の研究の推進

近年、著しく増加している認知症の発症メカニズムを解明するとともに、新規治療法・予防法の確立に向けた研究を推進した。

研 究 課 題
認知症発症メカニズム解明と新規治療法・予防法の開発に向けた研究の推進

(4) 発がんメカニズム解明と新規がん免疫療法等の研究の推進

都民の死因の第1位であるがんのうち、難治性がん、特に膵がん、乳がん、血液がんについて、その発症メカニズムを解明するとともに、新規がん免疫療法の開発に向けた研究を推進した。

研 究 課 題
発がんメカニズム解明と新規がん免疫療法等の研究の推進

4 産学連携等研究

外部機関からの委託により研究を行う受託研究や受託事業、民間企業と共同して研究を行う共同研究を実施するなど、外部資金の確保に努めた。

（1）受託研究：35課題

東京都や国立研究開発法人日本医療研究開発機構などから受託して研究を実施した。

研 究 課 題	委 託 者
在宅難病患者訪問看護師等養成研修事業	東京都保健医療局
認知症ケアプログラム推進事業	東京都福祉局
こども家庭センター体制強化事業システム構築等	
学校の居心地向上検証に係る調査研究	東京都子供政策連携室
エムボックスを含むオルソボックス属ウイルス感染症に対する非増殖型ワクシニアウイルスワクチンの開発に資する研究	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
解析対象ASD/SCZ家系の選定と臨床情報の収集	
生体における小胞体関連分解の解析とレクチンの機能解析	
難聴抵抗性遺伝子を用いた革新的医薬品の開発	
サブプレート神経活動のダイナミズムによる脳神経回路の発達機構	
肝硬変の生命予後を改善する革新的抗繊維化薬の研究開発	
RNA標的医薬創出に資する、疾患RNA分子完全長一次構造に関するデータ基盤の構築	
疾患特異的iPS細胞の樹立・特性解析・加工の高度化・効率化・情報公開	
非アルツハイマー型認知症の新規治療薬についての研究	

研究事業（産学連携等研究）

研 究 課 題	委 託 者
新しいHBVワクチン抗原及び経鼻免疫法の開発と検証	<p style="text-align: center;">国立研究開発法人 日本医療研究開発機構</p>
脳卒中後の機能回復機序に基づいた潜在能力促進法の有効性検証	
クライオ電子顕微鏡を用いた神経変性疾患タンパク質の構造解析基盤の創出	
癌に対する新規抗体モダリティの開発	
感染模倣型RNAワクチンに関する研究開発	
難治頻回部分発作重積型急性脳炎に対する抗サイトカイン療法のエビデンス構築と治療プロトコル作成	
B型肝炎機能的治癒を目指す革新的治療法の実用化	
ポリオウイルスを含むエンテロウイルス感染症の包括的な解明および総合的な公衆衛生対策に資する研究	
新しいHBVワクチン抗原及び経鼻免疫法の開発と検証	
マルチスケールリズムの相互作用に伴う性依存的な生体変調機序の統合理解と予測技術への応用	
次世代医薬品の開発基盤となるヒト化動物の創出	
双極症における視床室傍核の分子細胞病態の解明	
デグロン同定から迫るミトコンドリアストレス応答の研究	
造血クローン多様性の個体差が生む心不全発症メカニズムの解明	

研 究 課 題	委 託 者
様々な時間軸の「時」を決定する分子メカニズムの解明	国立研究開発法人 科学技術振興機構
脳生理機能を支える糖の脳内動態の解明	
シスエレメント同定パイプラインの構築と適用	
①中枢における情動－自律神経連関の神経回路解明とその制御法の開発、②遠心性神経による臓器機能調節の実態解明とニューロン制御法の開発	
人工神経接続による身体と心の制約からの解放	
若者と共に創る孤独予防戦略 コプロダクションによる若者の孤独の理解と予防法の創出	
感覚刺激による互惠的利他性変容技術の開発	
多階層ストレス疾患の克服	文部科学省

（２）受託事業：１事業

NPO法人脳の世紀推進会議から受託して、世界脳週間参加事業を実施した。

受 託 内 容 (委 託 者)
世界脳週間参加事業 講演会：「『ヒト』の『こころ』を目指して」「脳はどのようにできるのか？」 (NPO法人 脳の世紀推進会議)

（３）共同研究

大学や外部の研究機関との共同研究では、お互いの特徴を生かし、より優れた研究成果を求めるとともに、民間企業との共同研究では、研究成果の実用化を目指した。

研究事業（病院等連携研究、研究に関する専門的支援）

5 病院等連携研究

都立病院等との連携研究を推進するとともに、医療関係者を対象とした標本作成技術の提供や脳神経病理データベースの活用支援を行った。

事業	内容	実績等
1 都立病院等連携研究の推進	都立病院等連携研究発表会を開催するなど、都立病院等との連携研究を推進	都立病院等連携研究発表会 6 課題 病院等連携研究推進費支援 1 課題
2 脳神経病理データベースの整備と運営	わが国最大規模の脳神経病理標本をデジタルデータベース化し、脳神経疾患の病理診断の精度向上・標準化を推進	標本作成 32 症例 閲覧アカウント発行 229 件 大学教育用WEBコンテンツ提供 8 大学・9 実習

6 研究に関する専門的支援

実用化につながる研究シーズの発掘や、臨床研究・疫学研究のデザイン、生物統計解析に関する助言及び薬事申請への支援など、研究に関する専門的支援を実施した。

第2 普及事業

1 研究所の役割・研究成果の発信

研究活動及び研究成果を広く都民等に普及するため、医学研ホームページによる発信や、都医学研ニュースの発行、都民講座の開催等さまざまな活動を実施した。

事業	主な配布先・対象	時期	実績
1 都医学研ニュースの発行	都民、研究者、学生、 病院、保健所、行政機関、 その他関係者・関係機関	年4回	各2,500部 延10,000部
2 パンフレット・リーフレットの発行		2025年4月	2,500部
3 事業年報の発行		2026年3月	600部
4 ホームページの運営		年間	—
5 Xによる情報発信		随時	—
6 英文冊子の発行	海外の研究者（来客、国際シンポジウム関係者、海外で行われる学会等参加者等）	2026年3月	350部
7 都民講座の開催	都民	年8回	延1,506人
8 都医学研シンポジウムの開催	研究者、学生、 医療・保健従事者等	2025年11月	67人
9 国際シンポジウムの開催	研究者、学生、 医療・保健従事者等 （海外の研究者との交流）	年2回	延155人
10 都医学研セミナーの開催	研究者、学生、 医療・保健従事者等	年42回	延1,245人

普及事業（医学研究・生命科学研究への関心の涵養、研究人材等の育成）

2 医学研究・生命科学研究への関心の涵養

高校生などを対象とした講演会の開催など、次世代を担う若者等に対して医学研究や生命科学研究に対する関心や理解を高める活動を行った。

事業	主な対象	時期	実績
1 科学技術週間行事への参加	都民	2025年4月	63人
2 世界脳週間参加行事（講演会）（再掲）	高校生	2025年10月	36人

3 研究人材等の育成

研究に携わる優秀な人材の育成や研究活動の活性化を図るため、学生や研究者の受入れを図るほか、夏のセミナー等を開催した。

事業	主な対象	時期	実績
1 夏のセミナーの開催	研究者、学生、医療・保健従事者等	2025年7月	80人
2 外部研究員等の受入れ	大学、研究機関等の研究者、都立病院の医師等	随時	215人
3 研修生の受入れ	大学、研究機関等	随時	82人
大学との連携・研究交流			
4	① 連携大学院生の受入れ	東京都立大学、東京大学ほか	年間 各大学若干名
	② 連携大学院説明会の開催	理学、工学、農学、歯学、薬学、獣医学、保健学、心理学等の学部・学科等に在学する大学生や関連する専門学校生及び大学生等	2025年4月 28人
5 博士人材活用事業	東京大学、東京歯科大学	2026年1月以降	4人

普及事業（研究人材等の育成、地域との交流）

事業	主な対象	時期	実績
都立病院等との連携・研究交流			
① 都立病院の医師等の受入れ	都立病院の医師等	年間	32人
② 駒込病院 リサーチ・カンファ	都立駒込病院の医師等	年1回	25人
③ 多摩キャンパス 神経カンファレンス	多摩キャンパス ・都立多摩総合医療センター ・都立小児総合医療センター ・都立神経病院 ・都立府中療育センター の医師等	年1回	30人
④ TMEDフォーラム		年1回	100人
⑤ 東京都立病院機構等との連携研究セミナー	都立病院等の医師等	年1回	60人
7 外国人研究者の招へい	海外の大学又は研究機関に所属する外国人研究者	年間	6人

4 地域との交流

研究所を身近に感じてもらうため、サイエンスカフェ等の事業を通して、都民や地域の方々との交流を深めた。

事業	主な対象	時期	実績
1 サイエンスカフェの開催	都民	年3回	128人
2 施設見学	高校生、大学生	随時	131人

普及事業（研究成果の実用化）

5 研究成果の実用化

研究成果の実用化や都民還元を図るため、研究成果の権利化を進めるとともに、産業界等との連携、民間企業へのライセンス等を推進した。

事業	主な対象	時期	実績
1 研究成果の権利化	国内外のバイオ・医療系ベンチャー企業、製薬企業、医療機器関連企業	年間	国内特許出願 5件 国際特許出願 2件
2 国内外の企業との商談会（マッチング）への出展	国内外のバイオ・医療系ベンチャー企業、製薬企業、医療機器関連企業	年間	商談会参加 国内 2件 国外 1件
3 保有知的財産権の紹介（Web掲載）	国内外のバイオ・医療系ベンチャー企業、製薬企業、医療機器関連企業	随時更新	財団ホームページに掲載
4 知的財産のライセンス	国内外のバイオ・医療系ベンチャー企業、製薬企業、医療機器関連企業	年間	特許ライセンス契約 27件 成果有体物ライセンス契約等 56件
5 研究交流フォーラム参加（東京バイオマーカー・イノベーション技術研究組合（略称TOBIRA*）主催）	国内外のバイオ・医療系ベンチャー企業、製薬企業、医療機器関連企業、大学、東京都など	年1回	171人
6 共同研究及び受託研究の推進	国内外のバイオ・医療系ベンチャー企業、製薬企業、医療機器関連企業、大学、東京都など	年間	共同研究 72件 受託研究 35件 (再掲)

* 「早期診断・早期治療のためのバイオマーカー活用機器の開発促進」を目的に、「東京バイオマーカー・イノベーション技術研究組合」（略称TOBIRA「とびら」）が、東京都医学総合研究所、東京都健康長寿医療センター、首都大学東京（現 東京都立大学）、東京農工大学等を主な構成メンバーとして、平成23年8月31日に設立（経済産業大臣認可）。平成23年度から「とびら」が主催する研究交流フォーラムに構成員として共同参加。

Ⅱ 運営体制の充実を図るための取組

第1 運営体制の充実を図るための取組

1 公益法人内部における規範

(1) 研究所の基本理念及び取り組むべき目標を示す「組織目標」を年度ごとに作成し、全職員に周知している。これに基づき、職員個人が自身の業務目標を設定し、組織目標との整合性を担保したうえで業務を遂行する体制を構築している。

(2) 研究課題・研究目標を明確化し、5年間の期間を定めて都民への成果還元を目指す「プロジェクト研究」を実施している。外部委員による評価を受けながら、研究の効果的・効率的な推進を図っている。

2 法人運営における具体的取組

(1) 財団の評議員については、外部委員を含む評議員選定委員会において、候補者の経歴、適格性、他の役員等との関係性などを審査したうえで、選定を行っている。

(2) 公益法人制度への適切な対応を図るため、公益法人に精通した監査法人による会計監査を受け、財務報告の正確性とガバナンスの強化に努めている。

(3) 電子承認システム等の導入により事務処理の効率化を進めるとともに、処理ミスや誤りを適切にチェックできる仕組みを整備するなど、DXを推進している。

(4) 職員および都民が公益通報者保護法に定める通報対象事実に該当する法令違反行為等を通報できる窓口として、公益通報窓口（顧問弁護士及び財団内窓口）を設置し、通報体制を整備するとともに、必要に応じて外部の専門家による調査を行う体制を確立している。

Ⅲ 附属明細書

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則（平成19年法務省令第28号）第34条第3項に規定する事業報告の附属明細書として記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」は存在しない。